

令和4年度 学校運営協議会による学校関係者評価(まとめ)

浜松市立豊西小学校

【良い点】

- 子供たちの良さは、外から見ただけではすぐには分からない。一般的には、本校の子供たちは、純朴で素直な子が多いと言ってよいだろう。本校の教育活動もよく工夫され充実していると思う。残念なことは、それらがコロナ対策で規模が縮小されたり、時にはやむなく中止となったりしたものがあつたことだ。その中で、先生方が精いっぱい努力を傾けてくださったことに深く感謝している。コロナ禍の中、公教育の目的を果たしていくことに困難さがあると観ている。その中、総じて（8割）は好意的な感想や所感をもっていることに感嘆する。
- 豊西小は、あいさつに力を入れている。先生方が進んで挨拶をしてくれるのは、とてもすばらしい。昼休みなど伸び伸び外遊びを楽しんでいる。校内であいさつをすると気持ち良い挨拶が返ってくる。
- 協働センターで書き初め教室を行った際、豊西小の3年生が全体の挨拶とは別に、帰り際個別に講師の先生へ重ねて御礼を伝えていました。素晴らしい姿勢だと感心しました。
- 「ありがとうカード」はこのまま続けてほしい。あげる方ももらう方もお互いのためになる。自他のよいところを認めることができている。
- 一人一人の子に目を向けようとされている先生方の御努力がよく分かった。“学び合う”や“高め合う”という姿勢を育てることに力を入れていることも素晴らしいと思う。「授業が楽しくわかりやすい」「学級は安心できて楽しい」「自分の仕事を友達と協力してできる」等は、まあそう思うと肯定的に捉えている児童・保護者が9割近くあり、学校生活が安心して学べる場になっている。学び合う子の育成について、教職員用アンケートでは評価があまり高くなっていないが、先生方にはもっと自信をもっていて良いと思う。
- 家で学校の話をするのが微増ではあるが良い傾向だと伺える。
- 先生方との信頼関係ができている、よりよい成長が期待できる。
- 子供たちの学びのニーズに合った活動ができていると思う。学年の発達段階に応じたふるさと学習や、ICT学習が計画されている。校内の環境整備が行き届いていてきれい。全職員の努力だと思う。
- サンロード活動は、一人っ子や兄弟の少ない子供にとって、違う学年の子との交流は良い経験だと思う。下級生は頼もしい兄・姉と感じ、上級生も可愛い弟・妹と思っているのだろう。
- 何事にも真面目に取り組んでいる様子が伺えた。

【悪い点】

- 子供たち一人一人を見ると、良い資質を持っているし、確かな考え方も持っている。しかし、それらをみんなの前でのびのび表出することに苦手意識を持っている子が多いように思う。また、人を気遣う態度や習慣が身に付いていない子が多いようにも感じる。高学年になるに従い、発言する場が少なくおとなしい気がする。コロナの影響もあると思うが・・・。
- サンロード活動の声掛け評価が低かったのは残念。同級生以外と関係を持つのは非常に大切だと思うので交流を活発にしてほしい。コロナの影響もあるかもしれないが…。
- 体を動かす機会を増やして欲しい。
- ウィズコロナの生活となったことを踏まえ、最低限の感染対策はしつつも過敏になりすぎず、子供たちのためにコロナ前の日常を取り戻していただけたらと思う。

- 「好き嫌いせずに給食・・・」が昨年度より8ポイント減少している。コロナ禍で黙食となっていたことも考えられるが楽しく食べるなど、給食の指導のあり方を考えたい。職員アンケートにもあるようにこのままでいいのかと疑問が残る。指導方法が決められており変えていくのは難しいかと思うが、食育等を通して何とかできないものかと感じた。
- 教職員のアンケート「とてもそう思う」が0の項目があるが、大変前向きに子供たちの学びの支援に取り組んでいると思う。子供たちの素直な学習態度ややる気に表れていると思う。もっと高く評価してもよいと思う。
- 8割方の生徒・保護者で「家で学校の話をよくする」との回答があることにほっとした。より高めればよいのですが、難しいのかもしれない。また、「粘り強く学習に取り組む」「進んで挨拶する」が生徒の自己評価よりも保護者の評価の方が10ポイント近く低く、どのような表れであろうかと思いつかないところだ。

別紙3

令和4年度 学校運営協議会による学校関係者評価を受けて

～来年度の教育活動に向けての改善方策等について～

- 5月にコロナの対応が5類へ変更されるため、以前のような学校生活にゆっくりではあるが戻っていくと考える。人が集い交流できる環境に加えて、必要最低限だった子供・保護者・教員のコミュニケーションの機会をどんどん増やしていく。
- 給食の時間のあり方、食育との連携など、残さず食べる工夫をすることが大切である。好き嫌いの多い子やアレルギーの子供が増えているので、食指導に力を入れていく。「私はこの食材が好き、これは嫌い」と一人一品ほど明示して少なめに配膳したり、食べた量を認めたりしていく。また、残菜の山を目にすると、残す子は残すことに罪悪感を感じなくなることも考えられる。少し大変でも担任がクラスの残菜をまとめるように努める。
- 「キャリア教育の取り組み」や「困った時に先生や友達に相談できる」などに児童の2極化が感じられる。本年度以上に、地域との連携を深めてふるさと学習を実施するとともに、発達支援コーディネーター及び生徒指導主任を中心に、教育相談の充実、生活アンケートの有効活用を図り、家庭との連携を図るようにする。
- コロナ対応・ICT教育・英語指導・多様性・地域連携など、多忙な中だが、子供たちと向き合う時間を確保し、教員と子供そして保護者との信頼関係を作るよう努める
- 家庭学習のより一層の充実を図る。特に家庭学習で教科書をどのように活用すればよいか、家庭への啓発と子供たちへの具体的な指導助言を行うようにする。
- 自校のいじめ防止等の基本的な方針に基づいて、迅速かつ誠実な初期対応がチームでできる体制を整える。子供の普段といつもと違う言動を見落とさないよう、いじめ等の実態をしっかりと把握する。同時に、劇のロールプレイングなどによって、いじめられる側・いじめる側の気持ちによって、とても悲しい気持ちになることをもっと実感できるような取り組みを行う。